

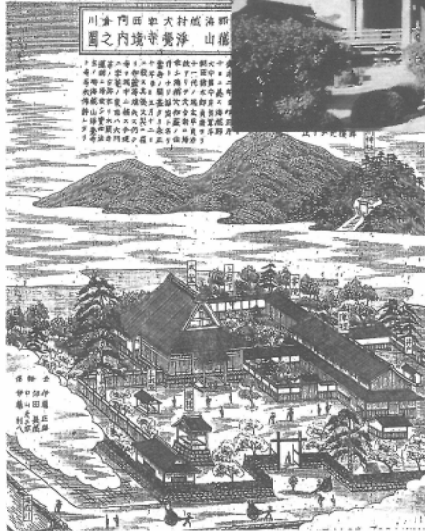
「海蔵の寺社」シリーズその③

浄覚寺

今回は、西阿倉川にある浄覚寺（浄土真宗、住職・館秀康師）をご紹介します。葛原親王の末裔館家十代の孫、



館太郎平貞康の子、太郎平貞治が、五百年前の文明十六年連如上人に帰依して僧籍に入り、實如上人の時、海蔵山浄



覚寺として現在地に建立された。その後、江戸末期（十九世秀山師）に焼失しましたが、昭和二年四月二十日、本堂再建とともに入仏式が行われた。阿弥陀如来像をご本尊として祀られ真宗本願寺派として、多くの

門信徒の心のよりどころとして親しまれております。

山門を入ると、境内には鐘樓があり、午前十一時に鐘が撞かれ、度度知らせるために現在も続いているそうです。

毎月十六日は、親鸞上人奥方のご命日の玉日講にあたり婦人会約六十人が、また第一土曜日は、青年会約三十名、壮年会約四十名の方々が講話をお聞きしたりして、

ふれ合いを大切に、憩いの場もなっています。境内はきれいに掃き清められて日曜日には遠方より参詣の人達も訪れます。

私たちの街ではこんなことをやっています

みゆきヶ丘二丁目文化祭を取材して

十一月二日、三日に一町だけの文化祭が催された。昨年竣工したミニ集会所を活用して、絵画・書道・木彫り・手芸・園芸そして陶芸と、出品は多彩。子供の作品、趣味から脱して本格的な芸の域のものまで町ぐるみの感があった。

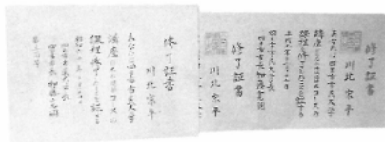
町の総意で建てられた集会所をみんなで活かそうと、カラオケ、手芸、囲碁、秋の日差しを受けて見入る親子、友達どうしゆっくり会話を楽しみながら味わう抹茶。なごやかなぬくもりいっぱい会場の雰囲気

近年、社会的に生涯学習の大切さが叫ばれてまいりました。今回ご紹介いたしますこの方も、昭和五十六年から、生涯学習の一端として、市民大学の聴講に取り組まれ、十二年間に十三枚もの修了証書をお持ちです。

その方は、東阿倉川一区にお住まいの川北宗平さんです。

では、インタビュー開始。
Q 市民大学を受講されたきっかけは？
A 学習に興味を持ち、老人ボケの予防に役立てればと、考えて始めたのが動機です。
Q 今までの講座で、印象に残るテーマは？
A 文化遺産として世界に誇る『日本の建築史』です。旅行先で、神社、仏閣、城郭等の見学には、役立っております。
Q これからも受講を、続けられ

わたしたちの街のエキスパート 「市民大学聴講12年」



で来観者は一同に「よかったね」と。後の組長会議では、来年も是非やろうということになったとか。

A 修了証書がふえてゆくのも生き甲斐の一つであり、二十枚にはしたいと思っております。
Q 学習の他に、趣味やサークル活動は？
A 詩吟と還暦から始めたワープロです。サークル活動は『ヘルシーサークル海蔵』に席を置き、二十名余りの皆様と共にスリムで健康な体づくりを目標に、活動しており、既に三年目を迎えました。

自分自身の健康管理の為に、市民大学とヘルシーサークルの活動は継続していきたいと考えております。
若若しいハツラツとした口調で語っていただきました。いつまでもお元気で活躍を、祈りつつ川北邸を後にしました。